【ねがいましては】

平成１８年４月１０日
第１８６号　　*KYOWA　SCHOOL*

「ちから」

３月２７日（月）、わたしにとって初めての連盟本部の仕事である『第５２回 全国珠算研究集会』が、長野市のビッグハットで行われました。五輪の輪の入った建物は、私に緊張感を与えるには十分なものでした。

全国から選ばれた４人の珠算界を代表するパネラーさんたちが主役となって、教室風景や指導法を語り合うというものでした。

私はその全体で使われるスクリーン映像の担当として、約４ヶ月前より準備に入りました。毎日のように午前中から教室へ来て編集作業です。普段の授業もありますので、両立を図るべく体力の限界を模索しながらの取り組みが続きました。

パネラーさんの一人である「M 先生」は、同じ支部に所属する先生であり、現在４つの教室を経営なさっている素晴らしい先生です。もう５年ほど前になりますが、私がパソコンで読上げ算をつくり、それを目にされてしばらくすると電話がありました。「どのように作られたのか教えてくれませんか。」

その熱意に押され、私は喜んでお伝えしました。しかも私より年上にもかかわらず、常に腰の低い言葉をかけてくれます。「先生には本当にご迷惑ばかりおかけしてすみません。」「無事研究集会が終われたのも先生のおかげです。」「今回の研究集会で一番勉強したのは僕です。」

素晴らしい言葉ばかりが私に注がれます。

そんな「M 先生」が集会前日の２６日、ホテルでの懇親会の後、お一人でホテルの部屋を訪ねてこられました。「栗田先生に見せたくて・・・・・さっきカバンを開けたら、中から手紙が出てきたんですよ。」と言って、私にご家族一人ひとり別々の便箋につづられた手書きの手紙を差し出しました。「これ見たら、なんか無性に栗田先生にみせたくなっちゃって・・・・・。」『おとうさん、ちゃんと朝起きたら髪とかしてね、ボサボサ頭はかっこわるいよ・・・。』『お父さん、食べ過ぎたらだめだよ・・・・。』あどけない字であふれた便箋からは、『家族』が香ってきます。

私はとっさに手紙を持ってきてくれた「M 先生」のお気持ちと、そこから注がれる家族の愛情にすっかり打ちのめされてしまいました。このような家族愛に包まれた家庭をお持ちになりながら塾経営をなさっている M 先生に出会えて本当によかったと・・・・。

家族が与えてくれる「ちから」、そのパワーは私には到底まねのできないものであると痛切に感じました。私も今まで多くのパワーを教え子たちからいただいてはいますが、M 先生のご家族には心の底から清らかな『嫉妬』を覚えました。いつまでも幸せな家族でいてください。

そのような家族の姿をこのようにしてお伝えするのも私の使命なのかなと思います。

携帯を持つのが当たり前、お受験をするのが当たり前、自分の部屋を持つのが当たり前、気の弱くなったお母様方やお子様方が、何か周りと同じことをしていないと不安になってしまう『弱さ』が、『家族』という２文字をはるか遠くへ追い遣ってしまっているような気がいたします。

ここ数ヶ月、子供たちに言い続けていることがあります。『小さな勇気』を持とうね！

お母様やお父様ご自身が、お子さんに対して遠慮なく本音で会話されているでしょうか。お子さんは本音を隠された親の『言葉』に傷つきます。寂しさを感じます。

先ほどの「M 先生」、実は８年ほど前に、ご自分の教室の近くが高速道路の建設計画地になり、近隣住民の方々がことごとく立ち退きになり、生徒さんが一度に半減されたそうです。そして『家族会議』を開き、一年間死に物狂いでがんばってみて、そしてだめなら転職を考えようということで、想像を絶するご苦労をされたそうです。私は「M 先生」の素晴らしいところは『家族会議』だと思っています。家長である父が丸裸になり、これからのことを家族に打ち明ける。この勇気こそ『家族』をひとつにした大きなゆえんではないかと思います。

親のしてきた同じ苦労を子にさせたくないから、しっかり成績を取ってもらって有名大学、行く行くは有名企業へ入ってもらいたい。今の私たち親の苦労を子に伝えてしまうと、きっと子供たちを苦しませることになるから、言わないでおきましょう・・・・・。

この中に大きな間違いが潜んでいることにお気づきいただきたいのです。

子は大人たちが想像する以上の思いやりに富んだ心を持っていると私は確信いたします。人の苦しみを自分のことのように感じたとき、なんとかして救いたいと真剣に思います。人の不幸を心の奥底であざ笑うようなことをするのは、学校でのテストのときです。「おれより、私より悪ければいい・・・。」この矛盾した二つの心に子供たちは迷います。

その心にピシッとけじめをつけてあげるのは、他でもないお母様お父様方ではないでしょうか。

その勇気ある言葉に子供たちは「ちから」を得るのではないでしょうか。

私の願いは、家族が明るさで満ち溢れた姿です。これからも言い続けてまいります。